

## 平成27年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」

地域において防災に関する体験活動に関わる団体・指導者などが集まり、滋賀県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおして、防災教育の観点から、子どもたちが主体となり、参画する体験活動の成果を共有することで、活動の啓発や推進を図るとともに、地域防災に関わる関係者の学びを深める。

### 【日時】

平成27年12月4日（金）13:20～16:30

### 【会場】

滋賀県庁新館7階大会議室

### 【対象】

社会福祉協議会、ボランティアセンター職員等

行政関係者（市町教育委員会、公民館・コミュニティセンター職員）

教員（学校防災教育コーディネーター担当者）、学校関係者

しがこども体験学校登録団体関係者

### 【参加者】

83名

### 【開催日程・内容】

日 程	内 容
13:00	受付
13:20	開会行事 開会あいさつ、日程説明
13:30	事例発表 ①「なんびっ子防災通学合宿」の取組 発表者 日野町立南比都佐公民館 主事 井上 和美 氏 ②「大津市防災キャンプ推進事業」の取組 発表者 大津市教育委員会事務局生涯学習課 主幹 山村 和義 氏
14:35	講評 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
14:40	休憩
14:50	講演 「市民性をはぐくむ防災キャンプとは」 講師 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
16:20	閉会



12月4日（金）、県庁新館7階大会議室において、平成27年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」を開催しました。

はじめに、県内で実施された防災キャンプの2事例について、発表していただきました。

事例発表の一つ目は、日野町立南比都佐公民館 主事 井上和美氏より、「なんぴっ子防災通学合宿」の取組について、発表していただきました。井上氏からは、「通学合宿」に防災訓練を取り入れ、子どもたちと保護者、そして地域の方々の協力等、地域のつながりを重視しながら活動されたことなどを報告していただきました。



事例発表の二つ目は、大津市教育委員会事務局生涯学習課 主幹 山村和義氏より、「大津市防災キャンプ推進事業」の取組について発表していただきました。山村氏からは、地元の青少年が指導者になって、防災意識と自主性を高めながら活動されたことなどを報告していただきました。



また、同志社大学社会学部 教授 立木茂雄氏より「市民性をはぐくむ防災キャンプとは」というテーマで御講演をいただきました。

御講演の中で、立木教授は、防災キャンプのミッションと必要性等について、データに基づいて説明された後、防災キャンプの方向性や効果について、高めるべきことを明確にすることで、さらに「生きる力」が高まると説明されました。また、防災キャンプに参加する子どもたちが身体の不自由な方やお年寄り、外国人などの要援護者の方々の支援者にもなれるよう、普段から「排除のない防災」を備えておく必要性を訴えられました。



さらに、地域の防災力を高めるために、滋賀県がこれまでから取り組んできた「土手の花見の防災」を例にあげ、防災を様々な活動から取り分けるのではなく、日頃の生活の中に溶け込ませるという考え方を防災キャンプの中にも取り入れる必要があると述べられました。

全体の講演をとおして、防災キャンプの意義と役割について、非常にわかりやすく御教示いただきました。

今回のフォーラムをとおして、今後も学校・家庭・地域が連携、協働を図り、子どもが主体となる防災教育はもとより、地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力向上を図るとともに、さらなる防災教育の推進の必要性を再認識しました。

なお、参加者アンケートの結果と感想（一部抜粋）については、別添で掲載しておりますので、ご覧ください。

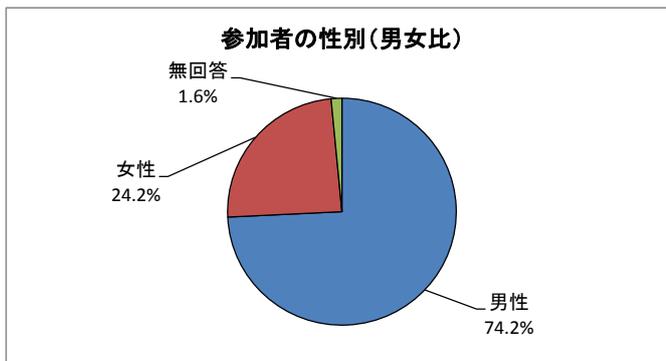
# 平成27年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」アンケート結果

※回収率 79.5%

(66名/83名)

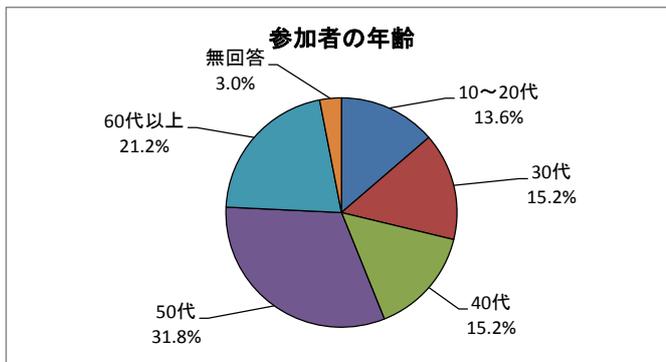
## Q1 ・参加者の性別(男女比)

	性別	人数	割合
1	男性	49	74.2%
2	女性	16	24.2%
3	無回答	1	1.6%
合計		66	100%



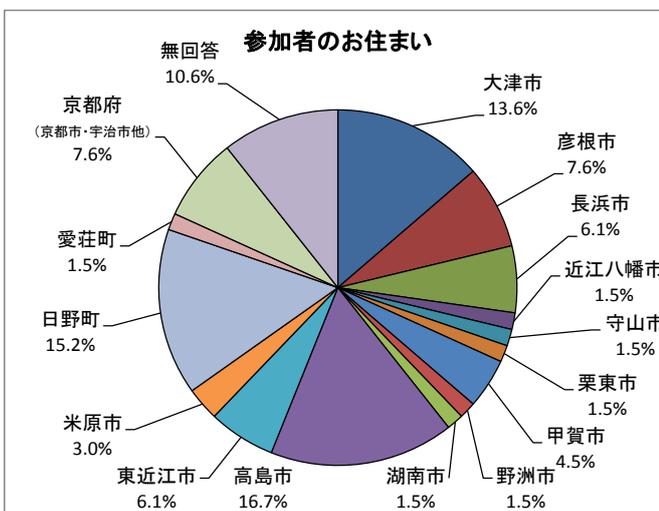
## ・参加者の年齢

	年齢	人数	割合
1	10～20代	9	13.6%
2	30代	10	15.2%
3	40代	10	15.2%
4	50代	21	31.8%
5	60代以上	14	21.2%
6	無回答	2	3.0%
合計		66	97%



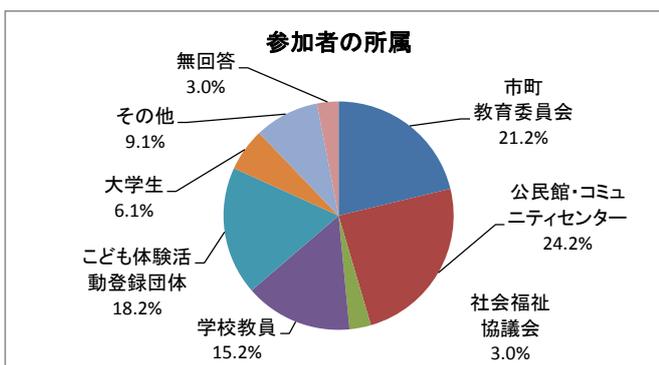
## ・参加者のお住まい

	市町名	人数	割合
県内	大津市	9	13.6%
	彦根市	5	7.6%
	長浜市	4	6.1%
	近江八幡市	1	1.5%
	守山市	1	1.5%
	栗東市	1	1.5%
	甲賀市	3	4.5%
	野洲市	1	1.5%
	湖南市	1	1.5%
	高島市	11	16.7%
	東近江市	4	6.1%
	米原市	2	3.0%
	日野町	10	15.2%
	愛荘町	1	1.5%
	県外	京都府(京都市・宇治市他)	5
	無回答	7	10.6%
合計		66	100%



## ・参加者の所属

	所属	人数	割合
1	市町教育委員会	14	21.2%
2	公民館・コミュニティセンター	16	24.2%
3	社会福祉協議会	2	3.0%
4	学校教員	10	15.2%
5	子ども体験活動登録団体	12	18.2%
6	大学生	4	6.1%
※7	その他	6	9.1%
8	無回答	2	3.0%
合計		66	100%



※7 その他

・まちづくり協議会 ・災害ボランティア ・市消防局 ・県職員 ・県立公園 ・会社員 等

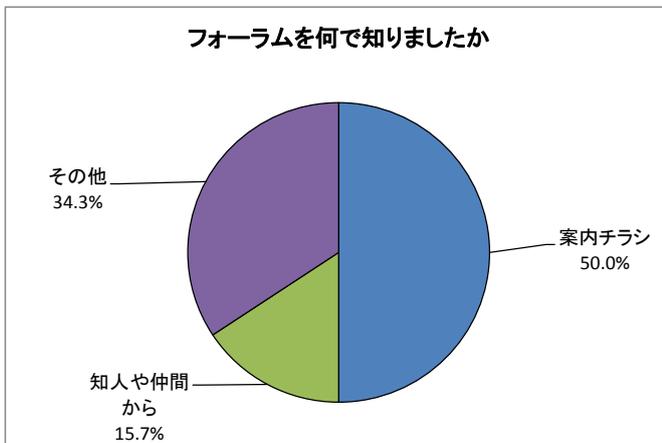
# 平成27年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」アンケート結果

Q2 このフォーラムを何で知りましたか  
(複数回答可)

	方法	人数	割合
1	案内チラシ	35	50.0%
2	インターネット	0	0.0%
3	知人や仲間から	11	15.7%
※4	その他	24	34.3%
合計		70	100%

※4 その他

- ・県や市町からの案内通知で
- ・学校での回覧で
- ・職場の上司や同僚からの勧めで

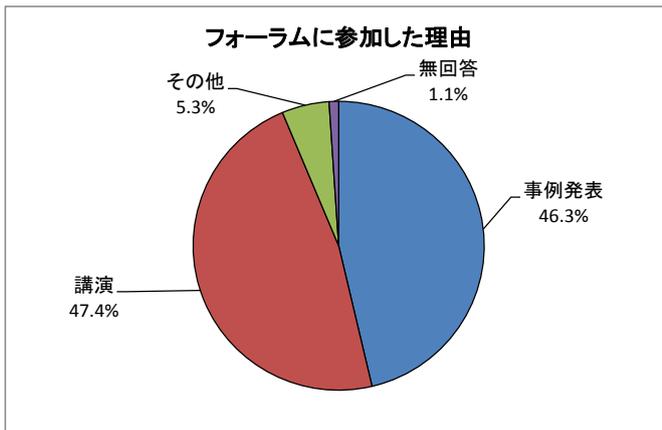


Q3 何に興味をもってフォーラムに参加しましたか？  
(複数回答可)

	内容	人数	割合
1	事例発表	44	46.8%
2	講演	45	47.9%
※3	その他	5	5.3%
4	無回答	1	1.1%
合計		94	100%

※3 その他

- ・「防災」に対する考え方・行い方を学ぶため
- ・「防災キャンプ」への知識を深めるため

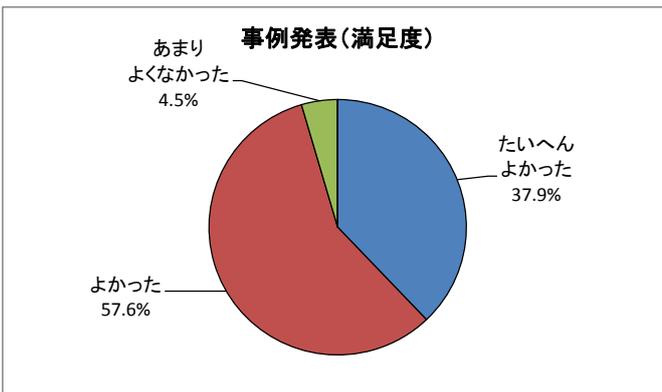


Q4 それぞれの内容について、感想を選んでください。

(1) 事例発表

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	25	37.9%
2	よかった	38	57.6%
3	あまりよくなかった	3	4.5%
4	よくなかった	0	0.0%
合計		66	100%

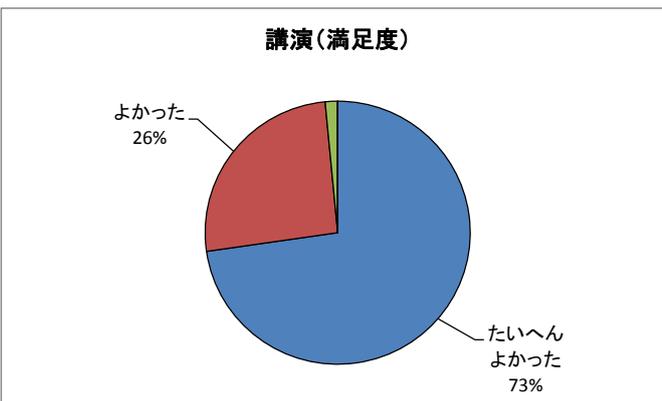
※理由については、次ページに記載



(2) 講演

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	48	72.7%
2	よかった	17	25.8%
3	あまりよくなかった	1	1.5%
4	よくなかった	0	0.0%
合計		66	100%

※理由については、次ページに記載



#### Q4 理由(一部抜粋)

1 たいへんよかった 2 よかった 3 あまりよくなかった 4 よくなかった

満足度	(1)事例発表
1	日野町の事例発表は、通常の通学合宿に防災を導入された事、企画からまとめまで素晴らしいと感じました。大津市の事例発表は、周知の方法に関して、我々も苦勞している点であり、今後の事業で見直し等のヒント的なものを得たと思う。
1	公民館が中心となった取組と市教委が中心となった取組を知る事ができた。公民館が中心となると、地域のつながりが強くなっていく可能性が大きいことが知り得た。
1	どういった内容で行っておられたかが分かって良かった。日野町は、写真が多くて、その時の内容が伝わってきた。大津市は、概要等が細かく書かれていて参考になった。
1	近隣地域で取組まれている防災合宿が、どのように行われているかを詳しく知ることができました。参考になりました。
1	消防署とも連携され、子どもたちに様々な体験があり、素晴らしい取組でした。
1	2つの事例とも、防災を地域の中で考えられたことが良かったと思います。
2	このような宿泊型の防災キャンプが行われていることを知らなかったので、活動内容という詳細部まで知ることができて良かったです。
2	災害が起こったときには、地域にいる中学生こそ、役立つ人でもあり、被災者でもあるそんな体験を見た上で考えたくなりました。
2	いろいろな体験や訓練を取り入れておられること、災害だけでなく、火事等にも役立つと思います。

満足度	(2)講演
1	地域の中でこそ生きる防災は、その大切さが増していると思いました。「土手の花見の防災」…いいキーワードでした。学校では何がそうなるのか、地域とどう関わっていくか考えていきたいと思いました。
1	防災キャンプのミッションとは何かと考えた活動の必要性をデータに基づいて話をされたので、大変良く理解が出来た。防災だけにとどまらず、今後の公民館事業に対する考慮点等、数多くのヒントを頂けた事に感謝して居ります。
1	きちんと順序だてて、しっかりとした調査結果をもとにしたお話だったので、とても良く理解できました。「地域力」の大切さが分かりました。いざという時のために日頃から参加してつながりを持ちたいと思います。
1	災害が起きたとき、生活が復興したと感ずるのは人のつながりがとても重要となっていることがデータからとてもはっきりわかり驚きました。地域力を高めるためにも、普段から行動を起こしていくことへの重要性を感じました。
1	大変、ためになる講演を聞けました。ありがとうございました。防災についてのイメージが変わりました。地域とのつながりや日常の活動が重要だと再認識することが出来ました。
1	支援者の立場からの講演が多いが、被災者の立場もわかりやすく解説されてよかった。自分の中にあつたもやもやがうすらいだ感じでした。
1	通学合宿を防災に生かしていく取組は興味深いと思いました。「土手の花見の防災」が広がるようにしていこうと思います。
1	災害過程など、初めて聞くことがたくさん聞けました。キャンプのミッションとは何かということを考える必要性を発見しました。
1	人と人のつながりの大切さについてのデータがあり、わかりやすかった。地域の力の必要性についてもよかった。
1	防災というものを深く考えることができました。今後の活動にたいへんいかせそうです。ありがとうございました。
1	事例に対する講評を交えながらであったので、イメージがしやすかった。
1	防災は人と人、まちづくりであるとあらためて実感した。防災と地域力の相関が興味深いと感じた。
1	防災という概念・考え方が変わった。見えていなかったものが見えた。足りない部分が明確になった。
2	大変わかりやすかった。学校と地域コミュニティとの連携は防災だけではなく、様々な場面で求められる姿だと感じました。様々な取組が防災にも役立つのだと感じました。
2	今までの防災キャンプに何を足したらさらに良いものになるかななどの説明があり、とても参考になった。

#### Q5 本フォーラムに御参加いただいて、参考になったことや今後取り組んでみたい内容がありましたら、お書きください。(一部抜粋)

防災キャンプという言葉そのものについて、まったく予備知識がなかった。このフォーラムについて、出席させていただいたことで、事例によって実態について知ることができ、今後そういったイベントを考える上で災害に対する意識をどうもつかということを考える機会になるようにすることが重要だと知ることができた。
子どもたちを対象に地域をとり込んだ防災キャンプができるといいということがよくわかった。準備が大変だと思うが、次の機会に生かしていきたい。特に「子どもたちができる支援」にはどんな内容があるかよく考えていきたい。
子ども、保護者、地域が連携して行える防災キャンプにはかなり意味があると感じた。子どもの頃から防災を生活を通して楽しく学ぶこと(ふれること)はとてもよいことですね!!
健康な人、子どもたちだけが避難するのではない。障害のある方を一番に考え、まず、その方が避難できる場所づくりの大切さを知りました。地域を含んだ防災を考える。
まずは、ハザート！土手の花見の防災への取組。普段やっていることが防災になるような取組を仕組んでいこうと思いました。

#### Q6 内容に対する御意見・御感想がありましたら、御自由にお書きください。(一部抜粋)

地域(滋賀県)の防災がバリアフリーの防災になるように特別支援学校は災害時だけでなく、日常においてもどのような配慮が必要かを啓発していくことが必要だと思いました。
昨年度も参加し、とても興味をもちもつと防災について学びたいと思い防災士の資格取得しました。「もっと自分にもできることがあるはずだ」と思うことができました。
本日は、防災講演会を開催して頂き、ありがとうございました。防災キャンプの事例や講演を聞いて、大変ためになりました。

# 滋賀県 防災キャンプフォーラム

12/4  
(金)  
13:20～16:30

滋賀県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおして、防災教育の観点に立った子どもたちが主体となり、参画する体験活動の成果を共有して、地域防災に関わる関係者の学びを深めます。

## ◆講演



### 『市民性をはぐくむ防災キャンプとは』

同志社大学 社会学部  
教授 立木 茂雄 氏

(プロフィールは裏面に)

## 事例発表

①「なんびっ子防災通学合宿」の取組  
発表者 南比都佐公民館  
主事 井上 和美 氏

②「大津市防災キャンプ推進事業」の取組  
発表者 大津市教育委員会生涯学習課  
主幹 山村 和義 氏



●対象：テーマに関心のある県民の方、学校教員  
県および市町行政職員、社会教育関係者  
公民館・コミュニティセンター職員 等

定員100人

11/27 (金)  
締切

## 会場

県庁新館  
7階  
大会議室

●申込方法：申込書（裏面）をFAXまたはEメール

FAX申込用紙の様式については、滋賀県学習情報提供システム「におねっと」様式集からダウンロードできます。

なお、FAXでのお申込みの場合は、FAX送信後下記担当あてお電話をお願いします。

●申込み・問合せ先：

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

地域・家庭教育係 奥村

TEL：077-528-4654

FAX：077-528-4962

E-mail：okumura-akira@pref.shiga.lg.jp

におねっと

検索